

導 | 入 事 | 例

Vol.4

ジャパンナレッジSchool
導入校に注目コンテンツ
やどんな授業に活用した
いかなどを聞きました。

東京都世田谷区にある中高一貫の女子校。1926（大正15）年に創立。6年間で3期に分け、発達段階に応じた6か年一貫教育を実施。協同探求型授業、教科横断型授業など「体験」を重視した教育を展開している。

ジャパンナレッジSchoolに期待することは？ 司書教諭の二井依里奈先生、副教頭で理科を教える入 英樹先生、数学を教える細野智之先生にお話をうかがった。



信頼性のあるツールを 大いに活用していきたい

田園調布学園中等部・高等部

（東京都世田谷区）

コロナ禍で全校生徒「1人1台」を実現

— 御校では以前からジャパンナレッジLibをご利用いただいていた。

二井: はい、2006年からジャパンナレッジ（現在、ジャパンナレッジLib）を導入していました。信頼あるデータベースとして多数の大学図書館で契約されていると評判を聞いて、展示会に行ってデモを見て導入を決めました。

ただ、我々図書館は「図書館便り」を作るときなどによく利用していましたし、一部の社会科の先生にはよく使ってもらっていたのですが、生徒には少しハードルが高かったようで、利用率は伸び悩んでいましたね。一方、ジャパンナレッジSchoolは中高生向けにコンテンツが厳選されているので生徒にもたくさん使ってもらいたいです。

— デバイス環境をお聞かせください。

二井: 生徒には1人1台Chromebookを持たせています。以前は中学2年生からの配布でしたが、昨年（2020年）はコロナ禍で休校になったことを受け、年度途中から中学1年生にも持たせるようになりました。生徒たちはパソコンを毎日家に持って帰っていて、肌身離さず、という状態です。ジャパンナレッジSchoolを導入して、生徒たち一人ひとりが机上で

百科事典を自由自在に使える日が来るなんて感慨深いです。ただ司書教諭としては、紙の辞書の良さも伝えていきたいと思っています。

まず、先生方に身近に感じてもらいたい

— ジャパンナレッジSchoolの印象はいかがでしょう？

二井: 新書が入っているのが大きいですね。図書館に一冊しかなかった本でも、みんなで同時に読み進めることができずし、理科の先生は「岩波科学ライブラリー」や「ブルーバックス」などの一部を読んでもらって、ちょっとした感想文を書いてもらうという宿題も出せそう、と期待していました。

— 新書以外で注目のコンテンツはありますか？

二井: まず、先生方にジャパンナレッジSchoolを身近に感じてほしいと考え、これまでのジャパンナレッジとどう違うのか、私の方で表を作って見てもらったんです。先生方に実際に授業で使ってもらわないと、生徒たちに良さが伝わらないので。その際に理科や社会科の先生方は、統計や白地図が入っていることをとても喜んでいました。

国語科の先生は「新編 日本古典文学全集」に注目していまし

た。授業で取り上げるのは作品の一部ですが、ジャパンナレッジ School を使えば、その前後の文章はこうなっていると教えることができますから、これは使い勝手が良さそうだと話していました。導入以前は図書館にある全集から必要なところをコピーし、切り貼りして、人数分をプリント配布するなどかなり手間がかかっていたようです。

印象に残る授業づくりに活かしたい

——御校では教科横断型の授業やICT 活用授業など、独自の「協同探求型授業」を展開されています。入先生はジャパンナレッジ School のどのような点に期待されていますか

入：常々、生徒たちには多面的・多角的に物事を捉える人間になってほしい、と願う授業をしています。広い視野を持つことで、ネットなどにあふれる情報から正しいものをきちんとつかめる人間になってほしい、と考えています。

2022年度からはカリキュラムが変わり、本格的に探究学習が始まりますので、ジャパンナレッジ School のような信頼性のあるツールを大いに活用できたら、と期待しています。

二井：ネット検索では一番上位にあるからといって、その情報が正しいとはかぎらない。信頼できる情報を見極める力が、これから生きる生徒たちにとってとても重要なんです。ジャパンナレッジ School というツールを使って、情報源を確認することがいかに大事なのか、を学びとってほしいと思っています。

——細野先生は教材づくりに活用されたとか。

細野：先日の授業で、古代ギリシャの天文学者、ヒッパルコスが確立した三角法で地球の半径や、地球から月までの距離を求めなさい、という問題を出しました。その際、少しでも数学にロマンを感じてもらおうと、「日本大百科全書」のヒッパルコスの説明を載せました。ジャパンナレッジ School には信頼できる情報が載っているので、誤った説明をする心配をしなくて済みますし、引用元情報も貼り付けることができるので、教材づくりの時間が短縮できました。



司書教諭の二井依里奈先生

私は学生時代に印象に残る授業が1つでもあるという経験は大きいと考えています。これが、生徒一人ひとりと向き合って授業をする醍醐味なのかもしれません。これからも授業づくりに、ジャパンナレッジ School を大いに活かせたらいいなと思っています。



連絡先

開発・運営

NetAdvance

株式会社ネットアドバンス（小学館グループ）

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-30 昭和ビル3F
e-mail : school@japanknowledge.com
TEL : 03-5213-0875 FAX : 03-5213-0876

販売代理店

紀伊國屋書店

株式会社紀伊國屋書店（ジャパンナレッジ School 担当）

〒153-8504 東京都目黒区下目黒3-7-10
e-mail : jks@kinokuniya.co.jp
TEL : 03-5719-2501 FAX : 03-5436-6921